

平成27年度次世代グローバルリーダー事業
「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」事後活動連携強化プログラム

The Next Generation Global Leaders Program 2015
“The Ship for World Youth Leaders” Post-Program Activities Promotion Programs



SWYAA国際連盟齋藤珠恵事務局長がSWYAA国際連盟組織とその活動について説明する
Ms. Tamae Saito, the Secretary General of the SWYAA International, explains about the organization and its activities.



派遣代表者の中野絵理が自ら企画・運営した「東北スノーキャンプ」の活動について発表する
Ms. Eri Nakano, dispatched representatives, presents the “Tohoku snow camp” she planned and implemented.



派遣代表者の水谷晃毅が自らサポートした青森南高等学校でのグローバル教育について発表する
Mr. Koki Mizutani, dispatched representatives, presents about the global education program he supported in Aomori-Minami High School.



メキシコのナショナル・リーダーのホセ・ルイス・フェルナンデスがSWYAAメキシコとして参加青年の選考にかかわったことについて発表する
Mr. Jose Ruiz Fernandez, the National Leader from Mexico, presents about the contribution to the selection process by SWYAA Mexico.



自らの興味についてグループで共有する
PY share their interests in a small group.



自分が今後サポートしたい活動の話し合いに加わる
PY sign up the group discussion of the project that they want to support.



参加青年が発案した「いつでもボランティア(スタンバイボランティア)」と「SWY Webプロジェクト(スワイファイ)」の活動について議論する
PY discuss about the “Standby Volunteer” and “SWY-Fi” projects which they proposed.



参加青年が発案した「2020年の東京オリンピックでのボランティア活動」について2014年のソチオリンピックでの経験等を共有し、議論したグループが発表する
PY present the “Tokyo 2020 Olympic volunteer movement” project after sharing their experience from Sochi (Russia) Olympic.

第1章

平成27年度 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」事業 既参加青年東京連絡会議

2016年3月19日～3月24日



平成27年度「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」事業 既参加青年東京連絡会議

目的

現在、世界各国の「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」事業既参加青年たちは、事業を通じて得た国境を越えた友情や連帯感、異なる文化に対する理解、その他様々な知識や経験に基づき、その属する国、地域や職域、さらには国際的な分野において、社会貢献活動を行い、事業で得られたものを社会に還元し、もって、同事業の効果を高めてきているところである。

既参加青年たちのこれらの活動は、各国の事後活動組織や事業年度を超えたグローバルな既参加青年間のネットワークの構築を通じて、日本の事後活動組織(IYEO)を中心

とした、より積極的かつ自律的な動きとなりつつある。

このような「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」事業既参加青年間のネットワークの構築・充実を支援し、事後活動の更なる活性化を図るため、各国の「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」事業の既参加青年の代表者が、社会貢献活動への取組の促進とネットワークの充実強化等について意見交換を行い、ネットワークを活用した国際的な事後活動の推進等を図ることを目的として、既参加青年東京連絡会議（以下「東京連絡会議」という。）を実施する。

共同声明

東京連絡会議における「SWYAA国際連盟」の共同声明（仮訳）

I. 本声明の主旨

この声明文は、SWYAA国際連盟の32加盟国を代表して書かれ、そして東京連絡会議2016に出席した代表者によって作成されている。この声明文は、日本国内閣府が主催していた「世界青年の船」事業の歴史及び後継事業の成果を顧みて、それを詳細に記すことを目的とする。また、後継事業の概要を示し、その事後活動の、社会的、環境的、経済的価値を強調することを目指している。

さらに、現在実施されている「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」の事業継続を日本政府に要望するとともに、SWYAA国際連盟として、事業がより良い社会への影響を与えるために継続的に行っている活動がどのようなものかを表明するものである。

II. 歴史と成果

1. 事業と事後活動組織の歴史

1988年、日本政府は、1967年から実施してきた「青年の船」事業を、国際化が進展してきた社会に対応できる人材育成を目指した「世界青年の船」事業に発展改組した。

1995年、日本政府は、日本の事後活動組織である「日本青年国際交流機構」との連携の下で、「世界青年の船」事業の国際的ネットワークを構築するべく、既参加青年のネットワークに呼び掛け、メキシコでの寄港地活動中のリユニオン開催を支援した。

1996年、日本政府は、本格的に各国の事後活動組織を活性化させるために、東側ルート13か国の代表者を招へいして「東京連絡会議」を実施した。

本会議において出席した代表者が同意書を作成し、「世界青年の船」事後活動組織（SWYAA）のネットワーク化に踏み出した。1997年に西側ルートの代表者も同様の同意書を作成した。

2005年、それまで存在していた東西の事後活動組織の同意書を『「世界青年の船」事後活動組織憲章』に統合した。

2007年より前、寄港地の船上で開催されていたリユニオンを、「SWYAA国際大会」として事後活動組織主催で開催することとし、2007年、第1回をギリシャで開催した。すべての既参加青年は、この国際大会に参加することができる。

2013年の27か国の代表者が出席した東京連絡会議における「世界青年の船」事後活動組織憲章の「SWYAA国際連盟憲章」への改定を経て、国際組織としての「SWYAA国際連盟」が確立した。

国内を寄港地とする事業（第25回「世界青年の船」事業、グローバルリーダー育成事業、グローバルユースリーダー育成事業）が3回続いた後に、2016年、次世代グローバルリーダー事業「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」において、海外航路が実現した。

2. 事業の意義と成果

事業の意義

本事業は、自国のアイデンティティを認識しつつ、世界的視野と国際協調の精神を持って国際社会で活躍できる青年リーダーの育成を目指している。この取組は、青年リーダーの育成、ひいては

国際平和構築に貢献できる世界に類を見ない貴重な事業である。また、日本政府が、事業実施にとどまらず、参加国のネットワーク構築を支援することは、日本、参加青年、そして参加国における事業成果を継続的に強化し、高めるものである。

事業の成果と事後活動

本事業は、参加した青年のリーダーシップや異文化対応力を高め、政治、行政、教育、国際協力、民間企業、非営利団体活動など、多様な分野においてリーダーを生み出してきた。また、各国のSWYAA国際連盟関係国は、青年リーダーの育成、異文化理解の促進を始めとして広い分野での社会活動に取り組むとともに、国内での活動にとどまらず、災害支援、教育、発展途上国への小規模融資、環境や社会へ貢献する活動、異文化交流や各国における日本文化の普及などの活動を展開している。

III. 事業継続についての具体的要望

人材育成及び国際社会への貢献としての大きな役割を果たしている本事業は、大変貴重である。この成果を継続し、これまで以上の成果を生み出していくためには、参加青年が十分な経験をえられる事業規模を維持することが必要である。こうした考えの下、以下のとおり要望する。

1. 事業期間及び訪問国

船舶を利用した事業の継続

日本参加青年と外国参加青年の日本における合同研修7日間以上

船上研修期間（海外航路）を現状の34日またはそれ以上確保することが望ましい

日本以外の訪問国2か国以上を含む

2. 参加人数及び国数

外国招へい国 世界の5大陸から10か国以上

各国12名以上

日本参加青年 120名程度

IV. 「SWYAA国際連盟」の活動ビジョン

1. 事業への貢献

寄港地活動への協力

必要とされる場合においては、各国における新しい参加青年の選考と決定に助言する

既参加青年の事前研修及び事後研修への貢献

本事業とその事後活動について、国内及び海外の関係者に広報する方策を継続的に考える

2. 事後活動を通じた社会貢献の積極的推進（SWYAA共通活動）

各国の事後活動組織は、国ごとに様々な活動を行い、それらを他の国にも広げる。これらの活動は、それぞれの地域や社会の必要に応じて立ち上げられるもので、SWYの以下の三つの柱に沿って実施される。

1. 国際理解と国際協力
2. 青年のリーダーシップ
3. 社会における青年層の活躍を促進する

以下は、SWYAA国際連盟の共通活動として実施しようとする事業である。

「SWYAA自然災害復興支援 (SWYAA Natural Disaster Relief)」 - 自然災害に見舞われた地域に対して、災害直後の支援から継続的な支援まで提供する。

「将来のための教育 (Educate for Tomorrow)」 - 恵まれない状況にいる子供たちに、教育の質の向上や教育の機会を与えるための活動を各国で実施する。

「SWYの森 (SWY Forest)」 - SWYの森の継続的発展を支援する環境関連事業

「献血週間 (Blood Donation Week)」 - 献血への意識向上と、年1回のSWYAA献血週間の開催を促進する。

「差別の無い機会 (Opportunities Without Discrimination)」 - 「SWYの日」に、差別の撤廃と多様性受容促進に向けた国際的なソーシャルメディアキャンペーンに参加する。

「ホームステイ・プラス・ワン (Homestay + 1)」 : SWYの既参加青年が、他のSWY参加国を訪れた際に、ホームステイと社会貢献の機会をセットで提供する。

3. 国際コミュニケーション委員会

SWYAA国際連盟は、国際コミュニケーション委員会の設置を目指している。その目的は、世界レベルでの広報活動の統括やSWYのブランド化、SWY事業関連ニュースや最新情報の発信、組織目標の拡大と国際的な共通活動の促進のためのインターネット戦略をまとめることである。

4. まとめと決意

1. SWYAA国際連盟は、日本がSWYという独特な事業の実施をしていることにより、より良い社会を作るための変革運動のリーダーに位置付けられると確信している。SWYは日本文化に対する理解を広め、日本と世界各国との間の絆を強める上で非常に重要な

役割を果たしている。

2. SWYAA 国際連盟は、SWYが国際的な相互協力と異文化理解を促進し、地球規模での変革をもたらすことを目指して、協働する青年リーダーをつなぐSWYAAネットワークを構築したと確信している。
3. SWYAA国際連盟は、SWYには有形・無形の成果があり、その事後活動は個人レベル、地域レベル、そして国際的なレベルで計りしれない貢献をもたらしていると確信している。
4. これらを踏まえ、SWYAA国際連盟は以下のとおり

決意する。

SWYAA国際連盟の活動ビジョンを実現する事後活動を通して、積極的に社会貢献を推進する各国のSWYAAとSWYAA国際連盟ネットワークを維持し発展させる
国際コミュニケーション委員会を設立する
引き続き日本政府との緊密な関係を維持し、SWYのビジョン達成を支援する
SWY精神を促進するため、国際的な協力の精神を持って活動する

2016年3月23日、我々は国際連盟共同声明に合意し、これを採択し、実行することを決意する。



各国事後活動発表会にて



挨拶をする各国代表者(エジプト代表)



事後活動について発表をする(エクアドル代表)



事後活動について発表をする(ペルー代表)



分科会にて各国の事後活動について共有する



展示ブースにて活動の説明をする(日本)

日程

月日	時間	活動	メモ
3月19日(土)		各国代表者 来日	
3月20日(日)	08:45	ホテルロビー集合、移動(バス)	国立オリンピック記念 青少年総合センター レセプションホール
	10:00 - 10:45	オリエンテーション、自己紹介	
	10:45 - 11:10	各国事後活動発表 / 展示準備	
	11:10	受付開始	
	11:30 - 12:45	ランチ・パーティー - 各国代表者紹介(壇上にて) - 乾杯(IYEO)	
	13:15 - 16:30	各国事後活動発表会 - 開会(内閣府挨拶) - 事後活動発表(4分×16か国) - 分科会 - 展示 - 閉会	
	17:00	ホテルへ移動(バス)	都内ホテル泊
3月21日(月)	10:30	ホテルロビー集合、移動(徒歩)	(一財)青少年国際 交流推進センター5階
	11:00 - 13:00	【会議】前回のVSIR*未解決事項、共同声明	
	13:00 - 14:00	昼食	
	14:00 - 17:00	【会議】共同声明、SWYAA国際連盟共通活動	
	17:00	ホテルへ移動(徒歩)	都内ホテル泊
3月22日(火)	08:45	ホテルロビー集合、移動(バス)、内閣府訪問	内閣府合同庁舎
	09:30 - 12:20	内閣府担当者との意見交換(カントリー・レポート発表) 4分×28か国	
	12:30 - 12:45	高木宏壽内閣府大臣政務官表敬訪問	
	13:00 - 14:00	昼食	
	14:00 - 14:20	内閣府担当者との意見交換(カントリー・レポート発表) 4分×3か国	
	14:20 - 14:45	内閣府担当者との意見交換(次年度の内閣府事業について、Q&A)	
	15:00	内閣府合同庁舎出発	
	15:30 - 16:30	自民党青年局訪問(日本青年国際交流機構主催) - 牧原秀樹青年局長との懇談	
17:00	移動(バス)	(一財)青少年国際 交流推進センター5階	
17:30 - 19:30	ワークショップ(意見交換) 任意参加 - これからのSWYの活動についての提案 - SWYAA共通活動についての提案		
		ホテルへ移動(徒歩)	都内ホテル泊
3月23日(水)	09:30	ホテルロビー集合、移動(徒歩)	(一財)青少年国際 交流推進センター5階
	10:00 - 12:30	【会議】SWYAA共通活動、共同声明(承認)	
	12:30 - 14:00	昼食	
	14:00 - 15:45	【会議】その他の未解決事項	
	16:30 - 18:30	【会議】会議のまとめ、議事録確認	
	18:30 - 21:00	歓送夕食会 *フィジーサイクロン支援の為にオークション	
	21:00	ホテルへ移動(徒歩)	都内ホテル泊
3月24日(木)		各国代表者 帰国	

*VSIR : Voting Session of SWYAA International Representatives
SWYAA国際連盟代表者議決会議

会議参加者

各国代表者

	国	名前	同窓会組織名	役職	参加事業
SWYAA国際連盟正式加盟国					
1	Australia	Ms. Rebecca Marshallsay	SWY Australia	President	SWY22
2	Bahrain	Ms. Budoor Kamal	Ship for World Youth Association - Bahrain	Secretary General	SWY23
3	Brazil	Mr. Adriano Lira	SWYAA Brasil	Vice President	SWY23
4	Canada	Mr. Louis Beauregard	SWY Canada	President	SWY13/17NL
5	Chile	Ms. Karla Cortés	Chile-SWYAA	President	SWY23
6	Costa Rica	Mr. Alonso Villalobos	Ship for World Youth Alumni Association Costa Rica	President	SWY3
7	Ecuador	Dr. Blanca Chatten-Kacouris	Ship for World Youth Alumni Association Ecuador	President	SWY1
8	Egypt	Ms. Samia Moussa	The Egyptian Alumni Association for the Ship for World Youth - EASWY	President	SWY6
9	Fiji	Mr. Patrick Morgam	Ship for World Youth Alumni Association of Fiji	President	SWY15
10	Greece	Ms. Danai Karnava	SWY GREECE Alumni Association	Member	SWY18
11	India	Mr. Ravi Chopra	SWYAA-INDIA	Vice President	SWY6
12	Japan	Ms. Reiko Ohashi, Ms. Atsuko Honda	International Youth Exchange Organization of Japan (IYEO)	Vice President	JYGC14, SWY11
13	Kenya	Mr. Peter Ongera	Ship for World Youth Alumni Association of Kenya	President	SWY6
14	Mexico	Ms. Patricia López Cárdenas	SWYAA Mexico	Vice President	GLDP
15	New Zealand	Mr. Arish Naresh	The Ship for World Youth New Zealand Incorporated (SWYNZ)	Co-President	SWY27
16	Oman	Mr. Mahmood Alfarsi	SWYAA Oman	Vice President	SWY20/22NL
17	Peru	Mr. Donato Villarán	SWYAA PERU	President	INDEX
18	Russia	Ms. Alina Lotfullina	SWYAA Russia	President	SWY24/28NL
19	Spain	Ms. Almudena Ramos	SWYAA Spain	President	SWY20
20	Sri Lanka	Mr. Chamal Amaraweera	Ship For World Youth Alumni Association Of Sri Lanka	Member	SWY27
21	Sweden	Ms. Carolina Hawranek	SWYAA-Sweden	President	SWY23
22	Tonga	Mr. Sokoi Liavaa	Tonga Ship for World Youth Alumni Association	Treasurer	SWY19
23	Turkey	Ms. Seda Yildiz	SWYAA TURKEY	Vice President	SWY22
24	U.A.E.	Mr. Jasem Alblooshi	SWYAA UAE	Vice President	SWY25
25	U.K.	Mr. Conor Houston	SWY UK Alumni Association	Member	SWY27
26	Venezuela	Ms. Andreina Martinez	SWYAA Venezuela	Vice President	SWY21
SWYAA国際連盟準加盟国					
27	Norway	Ms. Lillian Solheim	Ship for World Youth Alumni Association Norway	President	SWY21/23NL
28	Paraguay	Ms. Anahi Duarte	SWYAA Paraguay	President	SWY13
29	Solomon Islands	Mr. Jeffrey Tafolehe	SWYAA Solomon Islands	Vice President	SWY23

	国	名前	同窓会組織名	役割	参加事業
30	South Africa	Ms. Lynn Adams	SWYAA SOUTH AFRICA	Vice President	SWY8
31	Tanzania	Mr. Benedict Faustine Kikove	SWYAA TANZANIA	Member	GLDP
32	U.S.A.	Mr. Augustine Bartning	US-SWY Alumni Association	President	SWY17
SWYAA国際連盟事務局					
	-	Ms. Tamae Saito	SWYAA International	Secretary General	SWY10

内閣府

名前	役職
小野田 壮	大臣官房審議官
上村 秀紀	青年国際交流担当室参事官
金原 明彦	青年国際交流担当室参事官補佐
押切 哲夫	青年国際交流担当室参事官補佐
村田 仁美	青年国際交流担当室主査
大竹 祐一	青年国際交流担当室主査
高山 直人	青年国際交流担当室
Tel: 03-6257-1434 URL http://www.cao.go.jp/koryu/index.html 〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1	

日本青年国際交流機構役員

名前	役職	参加事業
佐藤 恵一	会長	JYGC20
大橋 玲子	副会長	JYGC14
本田 温子	副会長	SWY11
齋藤 珠恵	国際担当幹事	SWY10
伊井 頼子	国際担当幹事	SWY10
田中 純子	組織担当幹事	SWY8
長末 達也	PR担当幹事	SWY13, 24NL
得能 淳	PR担当幹事	SWY18, 23NL
Tel: 03-3249-0767 Fax: 03-3639-2436 URL http://www.iyeo.or.jp 〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14 東京海苔会館6階		

JYGC: Japanese Youth Goodwill Cruise Program 「青年の船」事業
SWY: Ship for World Youth Program 「世界青年の船」事業と後継事業

実行委員と一般財団法人 青少年国際交流推進センター職員

名前	役職	参加事業
中野 絵理	実行委員	SWY21
小島 まき子	実行委員	SWY21
水谷 晃毅	実行委員	SWY22
高橋 香南子	実行委員	SWY27
和田 恵	実行委員	SWY27
田中 佐代子	推進センター職員	SWY11
中沢 聖史	推進センター職員	SWY27ファシリテーター
松尾 早恵	推進センター職員	SWY22

全ての関係者の役職は2016年3月現在のもの



今後の活動について話し合う



中南米地域の代表者たち



大洋州地域の代表者たち



歓送夕食会にて

事後活動組織 (SWYAA) の主な活動

SWYAA国際連盟の加盟国は、各国で様々な事後活動を行っている。この報告書では社会貢献活動に焦点を当て、事務局へ年に一回提出されるカントリー・レポートの中から際立った活動を取り上げている。詳しい情報はウェブサイト参照。http://www.swy.international/

フィジー

第9回SWYAA国際大会 (フィジー大会)



SWYAAフィジーはナンディにおいて2015年8月12日から19日までSWYAA国際大会(Global Assembly通称GA)を開催した。5月に8名の実行委員が準備に着手した。

大会初日の開会式では、青年スポーツ省大臣が正式にプログラムを開会し、13か国から43名の参加者をフィジーに歓迎した。歓迎会の後、事後活動協議会が行われ、各国のSWYAAより活動の報告がされた。マングローブ植林やシンガトカにある大砂丘、ナサウ・ユース・トレーニング・センター、マタウル村への訪問はこのプログラムのハイライトであった。また、サウスシー島への日帰りクルーズは公式プログラムの最後を飾った。オプションツアーは、8月17日から19日まで実施され、参加者はとても静かな環境で、フィジーの隠された美しさを楽しむことができた。

清掃キャンペーンと“気候変動について”の弁論大会

2015年2月、SWYAAフィジーはナボウティニ村(Naboutin)で清掃キャンペーンを実施した。海岸沿いのこの村では、気候変動問題は住民の日々の課題となっていた。当初、清掃キャンペーンは、デング熱予防の注意喚起のために実施されたが、村で気候変動問題が蔓延していたため、この問題がいかに深刻か意識を高めるため、このキャンペーンに続くプログラムの実施が不可欠だった。

2015年5月、SWYAAフィジーは、村の若者と女性の意識を高めるために、また清掃キャンペーンのフォローアップとして、「弁論大会」を実施した。若者や女性が気候変動を理解し、彼らにどのような影響を与えるかを理解する必要があった。この大会は彼らにとって気候変動問題とは何であるか、個人にどのような影響を与えるか、その問題に対してどのような取組ができるかを考える機会となった。

インド

学校の清浄堂 (School Cleanliness Program)

インド政府は、「Swachh Bharat Abhiyan」(クリーンインドミッション)プログラムを開始した。このプログラムに協力するために、SWYAAインドは2015年2月、ニューデリーにある政府の小学校で「学校の清浄堂」という学校の清掃活動と公衆衛生を向上させるプログラムを始めた。この

プログラムは、在インド日本大使館、地元政府の教育局、ディスカバージャパンクラブ(DJC)、ディスカバーインドクラブ(DIC)、SWYAAインドからの協力と参加により運営された。小学校からは100名の生徒たちが参加した。プログラム当日、学校を訪問した参加者は生徒に、日本の学校には教室を自分たちできれいにしている習慣があることを伝えた。また、生徒たちと掃除をし、教室をどのように日本風に隅々まできれいにしているかを見せた。政府の小学校に通う、恵まれない環境で勉強をしている生徒たちにとって、日本人に会って交流する機会はそうない。生徒たちの表情豊かな顔、なにかしたい、学びたいという熱意は参加者の心をつかんだ。そこにいた全ての人にとって、2時間のプログラムは安らぎと満足、喜びに満ちたユニークな体験となった。

ケニア

ケニアのサポート/ ツペンダンネ (Tupendane) プロジェクト

約30名のケニアと日本のex-PYが関わっている、このプロジェクトは、ナイロビのダンドラスラムにある「イヴズ・デイ・ジュニア・スクール」のサポートを行っている。この学校には現在150名の生徒が通っており、このプロジェクトでは様々な活動が行われている。日本から、学習用品と子供たちの遊び道具が寄付された。それに加え、学校自体が収入を生む活動も行い、資金を集め運営をしている。



オマーン

水を供給するプロジェクト

2015年のSWYAAオマーンの主な活動は、チャド共和国の首都ンジャメナ(N Djamena)において二つの協同井戸を掘ったことである。65名からの寄付は、マスカットでイフタル中(断食月(ラマダン)に、日没後、初めてとる食事のこと)に収集され、アナス・アルディーブ(SWY27)に渡された。彼は慈善事業や援助団体に所属しておりそこでSWYAAオマーンを代表していた。井戸を掘る場所は、その地域で水資源のニーズが高い場所が選ばれた。一つ目は、100名以上の子供が通う学校の近くにある場所で、彼らは水場まで約5キロを歩いてきた。二つ目の場所は、五つの小さな村の真ん中に位置していた。2015年7月15日に、アナス・アルディーブは国を訪問し、二つの井戸は9月に完成した。

SWYAA オマーンの日

オマーンの日には、いつものようにex-PYの集まりとボランティア活動を実施した。このイベントは、ラマダン中に主催し(2015年6月18日から7月17日まで)、今年は、2015年7月8日にオマーンの三つの都市で(ニズワ、サララとマスカット)それぞれイフタールを開催した。



オマーンの三つの都市にてイフタールを開催

ペルー

3.11についての講演

SWYAAペルーはアミヤ・ミラー氏による講演会を、「3.11地震と津波から4年後の東北 - 自治体レベルで学んだこと」というテーマで2回実施した。2回の講演は、2015年1月14日、午前10時から国立民間防衛研究所(INDECI)の講堂、午後7時30分に日本ペルー文化センターの講堂で行われた。2回の講演には非常に多くの参加があった。午前中は、災害リスク管理の関係者、約60名が参加し、午後は、主にペルー日系協会から約70名の参加があった。

アミヤ・ミラー氏の講演は、住民や衛星画像で撮影した写真、津波によって引き起こされた壊滅状態を見せながら進んだ。彼女はその後、陸前高田市の再建がどのように行われたかを報告した。最後に、今回の災害から学んだことについて、特に地域の災害リスク管理に関して話があった。例えば、津波の高さの予測値が正しくなかったことについて説明があった。中央政府と常に調整を行い、危機的状況に面した時に対応できる柔軟なルールを作ることが不可欠であると指摘した。

彼女自身の言葉として、陸前高田市役所の目指す所は、今回の災害の後に団結を見せ、支援してくれた国々に感謝の意を伝えることはもちろん、それ以上に今回の経験を伝えることによって、彼らと同じような経験をしないで済むようにという願いが込められている。



アミヤ・ミラー氏と共に

ベネズエラ

TEDxUCV (TED x 国立ベネズエラ中央大学)

2015年6月に、SWYAAベネズエラはカラカス初のTEDxUCVイベントの運営に携わった。ナタリー・ウィエルダック氏(プロジェクトコーディネーター)は、イベントの制作責任者である。TEDxUCVはベネズエラの社会的な土台の再構築に焦点を当て、「Generacion en Red」との提携により実施された。発表者は国際的なシェフであるスミト・エステベス氏、統計学と経済学の専門家のルイス・ピセンテ・レオン氏、地元の起業家カルロス・セザールアピラ氏、青少年リーダーのハビエル・メディナ氏を含む13名であった。それぞれがアイデアを出し、経験を共有し、直面している社会的、経済的、政治的危機にアプローチするための、革新的なすばらしい解決策を紹介した。TEDxUCVにおける、現在視聴可能なリンクは次のとおりである:

During a crisis if you freeze you lose. (災害が起こった時に当惑して固まってしまうと負け)

ルイス・ピセンテ・レオン氏: <http://bit.ly/1O8v0UX>

The power of the non-political actors to change the system. (非政治的な人々がシステムを変える力)

ハビエル・メディナ氏: <http://bit.ly/1O30qyc>

運動会 2015

2015年8月にカラカスにおいて、3名のex-PY、ステファニー・チャシーン、カルロス・ディアス、ルチア・ファチニ(SWY24)を含む10名のボランティアが運営する、日本語学校「御縁マラカイボ」の学生のための運動会を開催した。日本の運動会は毎年行われる非常に重要な行事である。私たちは、毎年の活動にそれを含めることを決めた。よく知られた伝統である運動会を実施し体験を通して学び、理解することで、ベネズエラの学生が日本文化を身近に感じることができるからだ。挑戦にあふれた一日はそこにいた異なる背景を持つ人々を団結させた。綱引き、人間ピラミッド、大縄跳び等、人気の種目が行われた。運動会はいろいろな競争をする行事であるにもかかわらず、時間を共有し、教室の外でお互いを知るための学生にとってすばらしい機会となった。私たちは楽しみながらチームワーク、リーダーシップ、戦略的思考と意思決定、それらの全てを促進することができた。この日は、良いエネルギーと喜びであふれた一年の中で最も幸せな日の一つだった。みんなの笑顔が「ありがとう」と言っているような、非常にやりがいがある日であった。



参加者全員の集合写真